

クローズアップ・がん治療施設 (35)

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

神戸市立医療センター中央市民病院



大北仁裕*・辻 晃仁**

*地方独立行政法人 神戸市民病院機構
神戸市立医療センター
中央市民病院腫瘍内科
部長

●沿革と概要

神戸市立医療センター中央市民病院は、大正13年に設立された市立神戸診療所を前身として、幾度かの改称、移転を経て昭和56年3月に神戸市中央区、神戸港南部に位置する人工島であるポートアイランドに移転、平成23年7月よりポートアイランド内で新築移転して現在に至ります。

当院の位置するポートアイランドは1998年より先端医療技術の研究開発拠点を整備し、産学官の連携により、21世紀の成長産業である医療関連産業の集積を図る「神戸医療産業都市」プロジェクトの一翼を担っています。国の「都市再生プロジェクト」などにも位置付けられ、「日本初のライフサイエンス（健康科学）分野のクラスター」を目指すプロジェクトとしても進められており、当院の他13の中核施設、270以上の医療関連企業が進出しています。

●基本理念：

「神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療

を安全に提供する」

●基本方針：

- ①患者の生命の尊厳と人権を尊重する
- ②十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供する
- ③基幹病院としての機能を果たすため、高度・先進医療に取り組む
- ④24時間体制での救急医療を実践する
- ⑤医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図る
- ⑥地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進める

阪神淡路大震災後平成8年には災害拠点病院、平成19年より地域がん診療連携拠点病院、平成21年には地域医療支援病院に指定され、より一層地域の医療水準の向上に取り組んでいます。

●施設の概要

場 所：神戸新交通ポートアイランド線 医療センター駅

総延床面積：約64,000m²

稼働病床数：690床

診療科：内科（循環器、糖尿病・内分泌、腎臓、神経、消化器、呼吸器、血液、腫瘍、感染症、緩和ケア）、外科（外科、乳腺、心臓血管、呼吸器、脳神経、整形、形成、頭頸部）、泌尿器科、産婦人科、眼科、小児科、耳鼻咽喉科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、臨床病理科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救命救急センター・救急部、総合診療科

病院医師：常勤149名、前期レジデント35名、後期レジデント106名、看護師936名、臨床検査技師50名、放射線技師47名

がん薬物療法専門医：3名、指導医1名

がん関連認定看護師：がん化学療法看護3名、がん性疼痛看護2名、乳がん看護1名、がん放射線療法看護1名、緩和ケア専門看護師1名

がん看護専門看護師：2名

薬剤師：55名、がん専門薬剤師3名、がん指導薬剤師3名、がん薬物療法認定薬剤師1名、緩和薬物療法認定薬剤師1名

病床利用率：93.8%

平均在院日数：11.3日

1日平均外来患者数：1,922名

紹介率：56.8%

逆紹介率：83.5%

手術件数（全身麻酔）：12,337件（5,942件）

●地域がん診療拠点病院としての取り組み

当院では患者の来院当初から内科系医師、外科系医師、放射線治療の専門医師、看護師、薬剤師、技師などががん診療に携わる医療従事者がチームを組んで治療にあたれるよう、高度専門医療センターを新設し、最適な治療を提供できるよう取り組んでいます。高度専門医療センターの1部門として、がんセンター

を設置し、マルチスライスCTやPET-CTなどを利用したがんの早期発見、手術・内視鏡・放射線（IMRTリニアック等）・化学療法などに加え、早期からの緩和医療の導入など、チーム医療としてがん患者の治療にあたっています。平成25年4月からは、患者にとってベストの治療を選択し、より専門的にがんに対応するためがんセンターを立ち上げ「臓器別ユニット外来」を行っています。がんセンターを受診された患者さんは、がんセンター外来内で必要な専門科（外科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、放射線治療科、乳腺外科、泌尿器科、婦人科、緩和ケア内科、腫瘍内科等）の診療をその日に受けることが可能です。

当院の長所のひとつである垣根のない診療科の特長を活かし、迅速なコンサルテーション体制を取り、さらにはがん診療医師、看護師、薬剤師、事務方が参加するキャンサーボードを定期開催し、患者さんの治療方針などにつき積極的な議論を行っています。地域がん診療連携拠点病院としては、地域のがん診療の基幹病院として病病連携・病診連携を積極的に進め、兵庫県がん診療連携協議会と協働してがん地域診療連携バスを活用しています。さらに患者さんに対しては、当院がん相談支援センターが神戸市とともに年4回のがん市民公開講座を開催、地域医療機関には医療連携推進室が年4回のがん診療オープンカンファレンスを開催するなど、神戸市民のがん医療のよりどころとなるべく努めております。本年5月からは、市民向けの勉強会「がん市民フォーラム in KOBE」を開催し、最新のがん医療の紹介を図っています。

神戸市立医療センター中央市民病院 がんセンターの Mission&Vision

使命 (Mission)：神戸市民に対して、最高水準のがん治療を施行するとともに、がんに関する相談支援および情報提供を行う。

活動目標 (Vision)：神戸市民のために、連携施設/機関と協働して、地域で完結する高度ながん治療を提供し、信頼のおけるがん情報を発信し、患者さん、ご家族の皆さんが、がんを負けない治療をおこないつつ、自分らしい生き方ができるよう支援する。

●神戸市立医療センター中央市民病院におけるがん医療の現状

—診療科、メディカルスタッフ、メディカルクラスター間の協働—

1. 手術(内視鏡手術を含む：平成25年度)

当院における全身麻酔での手術件数は5,942件にのびります。主ながん腫として、食道がん：27例、胃がん：128例、大腸がん：195例、肝がん：50例、膵がん：44例、乳がん：187例、肺がん：222例となっており難治がん手術に重点を置いています。また、高度進行症例に対しては術後補助療法のみならず、術前化学・放射線療法なども導入し、様々な臨床試験や治験を行っています。消化器早期がんについては、低侵襲治療としてESD、EMRを積極的に行っており、食道がんは32例、胃がん132例、大腸がん25例の診療実績を有します。

さらにメディカルクラスター内外からの救急患者に対する緊急手術にも対応しています。

2. 化学療法

外来では腫瘍内科が中心となり、外来化学療法センターの運営を行っています。現在外

来化学療法センターは33床（ベッド11、リクライニングチェア22）で稼働しており、平成25年度には年間9,923件の診療実績を有しています。呼吸器内科、血液内科、乳腺外科、泌尿器科、婦人科、頭頸部外科、腫瘍内科などの化学療法のすべての抗がん薬を、薬剤部がセンター内のブランチラボで調剤しております。

化学放射線療法も、患者さんの状態が許せば積極的な外来治療を心掛けております。一方で、入院が必要な患者さんの場合も、各診療科が連携して治療を行います。

このなかで腫瘍内科はがんセンターの中核診療科として、トリアージ機能、ハイリスク・治療困難症例、院内外診療科のoncology emergency対応などの機能も有しております。

また治験臨床試験センターと協働で、CRCの完全サポートのもと多数の国際治験・国内大規模臨床試験、グループ内臨床試験などを実施し、エビデンスの構築に貢献しております。

3. 放射線治療

当院では放射線治療医6名（うち放射線治療専門医3名）、放射線治療専任技師5名、医学物理士1名、品質管理士1名、がん放射線療法看護認定看護師1名を配置し、治療にあたっています。外照射や全身照射に加え、特殊治療として脳定位放射線治療、強度変調放射線治療（IMRT）を行っています。また、内部照射では（画像誘導）腔内照射、前立腺がんに対する小線源治療なども行うことができます。平成25年度における放射線治療件数は延べ8,894件でした。

さらに当院南端に先端医療センターが、当院北隣に神戸低侵襲がん治療センターがあり、3病院協働での放射線治療を行っており

ます。この協働でサイバーナイフやVarian社製TrueBeamでの治療や世界初の動体追尾照射が可能な高精度放射線治療装置Vero4DRTでの治療も可能となっております。

4. 緩和ケア

緩和ケア内科外来、緩和ケアチームを有しております。緩和ケアチームは、緩和ケア内科を中心に、身体症状の専従医や各診療科のスタッフ医師、精神科医や認定がん看護専門看護師、緩和薬物療法認定薬剤師、管理栄養士などで構成されています。

また、緩和ケアオープンセミナーを定期開

催しております。

●将来展望

神戸市立医療センター中央市民病院はこれまでも、神戸市はもとより兵庫県における基幹病院として、他施設と連携し多くのがん患者の診療に取り組んで参りました。今後も新規治療法、エビデンスの確立に向けた取り組みを推進し、がん患者さんに対し、さらなる高質の医療の提供を行ってゆきます。また今後も優秀な人材の育成、地域への派遣などに努力してゆき、神戸医療クラスターの核として邁進してまいります。